

## 第5回角田市上下水道事業運営審議会会議記録

日時：令和7年2月26日（火）午後1時30分～午後2時40分

場所：角田市役所 301会議室

出席委員：杉委員、中嶋委員、島津委員、高橋委員、鈴木（淑）委員、笹木委員

以上6名（欠席2名 古積委員、鈴木（文）委員）

事務局：上下水道事業所長、事務次長（総括・水道）、事務次長（下水道）、技術次長兼下水道施設係長、経営管理係長、経営管理係主事

傍聴者：なし

### ○内容

#### 第5回審議会

##### 1 会長挨拶

審議会においては第5回目となり、忙しい中の参集に御礼が述べられた。議事は1件であり、協議をお願いしたい旨が伝えられた。

##### 2 議事

事務局より次の内容について説明が行われました

###### （1）角田市下水道事業経営戦略について

説明後、議事に沿って会長より委員へ質問、意見等について諮られ、以下のとおり受け答えが行われました。

###### （1）角田市下水道事業経営戦略について

委員 今まで色々と検討いただいている内容だと思うが、説明の中でウォーターPPPの導入可能性の調査を行っているところがあるが、具体的には何を調査して最終的に何を確認しようとしているのか教えて欲しい。

事務局 PPPとは水道、下水道に関しての民間活力の活用ということで、官民連携事業というもので、本来であれば料金収入まで全部を任せるというものが最終形態だと思うが、公共性の高い事業でもあることから、角田市としてはそこまでは考えていない。現在は下水道の管路更新の計画策定と実施、検証までの部分を出来ないか検証しているところ。来年度は予定として農業集落排水の処理場の運営維持管理、その他公共下水道の維持管理に関して委託することが出来ないか考えている。期間は10年間の長期契約をすることになる。委託が出来ない内容としては情報の取り扱いなどであると思う。

委員 これから世帯数が減ってきて、委託をすることでコストを抑えることが出来る

のであれば少しメリットがあると思う。但し、検証の結果、委託を行うことでコストが上がるのであれば、今の台所事情の中では難しいというのなんとなくのイメージが見えるのではないかと思う。

事務局 検証について、本来であれば費用を抑えるところが一番のメインになるのは重々解ってはいるが、官民連携事業を導入しないと管路の更新に対して補助金を出さないという国の方針があり、一つの要件である。補助事業が無くなるというのは事業として厳しくなる。基本的には事業の半分に補助金が入り、管路を更新していくということになる。124億円の管路更新では60億円の補助金になる。もう一つとして、建設業従事者が減少しており、技師不足も深刻な状況になっている。この部分の改善についても程度の役割を加味する必要がある。費用対効果については、現在、導入可能性調査を行っており、どのくらいの費用が削減できるかというところが出てくる予定。

委員 官民連携を行うことで補助金を得られるという施策の一つであることについて理解した。ただ、何れにしてもコストは上がる方向になると気にしている。

委員 色々と資料を用意してもらい皆さんが頑張っているのは分かるが、私のような素人からすると、埼玉県で発生した事故が気になる。あのような事故に対応して国の予算も増やす方向なのか。

事務局 国の方からの指示では、埼玉県で発生した事故箇所の規模の下水道管を有しているのは国内に7つ程とのことで、その対象には直接指示がされている。宮城県ではそのようなところは無く、角田市も対象ではないが、自ら点検をして安全対策を行う作業は宮城県でも行っている。仙台市、角田市でも先日、大きな管口径について実施した。これについて費用が国から支出されるというものではないが、必要な事業として自ら行った。

会長 あのようなことがあれば、修繕など必要になってくる。今回値上げの検討を行ったが、さらに値上げのようなこともあるのか。

事務局 令和7年、8年、9年の3ヵ年について継続的に事業が出来るように改定をしており、物価の高騰などもあるが、例えば5年程度の日安の期間の中で検討を行い、必要があれば改定することも考えられる。そのまま継続することが出来れば据え置くという考え。資金が必要な事業であり、今一番必要と思われるものは管の更新や修繕であり、優先度の高いものから順に行っていくとう姿勢で取り組んでいる最中である。

委員 先ほどの官民連携について、テレビのニュースでも取り上げられているが、土木技術者が減っている。新たに白石工業高校などに土木工学の学科を設けてという話もあるが、角田市職員の今後を考えると、例えば補助を出して優秀な人材に勉強をしてもらって、市に入ってもらうなど考えはないのか。

事務局 市の技術職員について足らない状況にあり、困っている状況である。募集はして

いるが中々応募がない。人材育成という部分で、仙南にも工業高校はあるが、見合う職種がないということで、県の方へ仙南に土木技師等の担い手となるような人の育成が出来る高校を準備して欲しいというお願いをしている。どこの自治体でも不足しているというのが実情と思われる。他町の話しであるが、工業高校のOBである職員が母校に行き働きかけをしているという話もある。但し、お金を出す奨学金制度や何かしらを設けてというのはルール上できないかと思われる。

会長 使用料の話しについて、復習になるかもしれないが、使用料で維持管理費をすべて賄うが、他に今までの借金を返済するお金が足りていないという状況がわかる。さらに、今後、管路の老朽化のことで、以前のような大きな災害はないと思うが、事故は起こりえる。令和13年頃から管路の更新を行う場合に、更新に係る費用というのは先程のウォーターPPPを行い補助金を貰いながらやるということで、これも借金を行う必要がある。管路更新が始まるとどのようになるのか。

事務局 維持管理費というのは職員の人件費などもあり、このような部分については推計上大丈夫である。更新については、大体年間3億円で124億円を見込んでいる。45%は国庫補助金を受け、企業債も充てることになるのが下水道事業の難しいところである。企業債を発行しない場合、国からの交付金が来ないということで、実際に足りないお金というのが45%の半分22.5%がやはり使用料収入で何とかするか、又は一般会計でお金を出すかということになる。先程の4ページのグラフのとおり、どの程度の更新をしていくかということと、費用対効果が無いとことを止めるという判断が必要になると考えている。色々と資金繰りがあり、うまくバランスを取りながら事業を行っていきたいと考えている。

会長 公共下水道については区域の見直し等の話もあり、出来るだけ費用対効果に見合うような区域を選定していくのは分かるが、公共下水道はやめられない。農業集落排水事業については、将来的に二つの処理場について改修も大変な費用になる。当然、集落の人口は減っていくので使用料は上がらない。改修についても一財を積み込まなければならない状況になると、税の公平性から考えて大変なことになる。将来的には農集排をやめるという極端な話にも行く可能性があると考えている。私の想定ではその辺も視野に入れておかなければならないのではと勝手に考えている。あくまで意見としてである。

事務局 予測ということで、明日明後日の話しではないが、近い将来そのようなことが来るというのは予測されることである。農集排の地域では人口の減少が大きい。その人数で処理場を維持するのは難しくなる。維持できなければどのような形で処理を行うかという話しをしなければならない。

会長 極端な話として、集合処理をやめて合併処理浄化槽を設置するなどの時代も来るのではないかと考えさせられる。

- 委員 農業集落排水については今後さらに非効率になると考えられるが、水道事業だけではなく、農業振興と一緒に進むべき事業である。そのような動きがあれば教えて欲しい。また、今回の計画である年度からはキャッシュがマイナスになるものと思うが、おそらく角田市単独で事業を行っていくのは限界があるように思う。記載にもあるように広域連携のような動きが今の段階で何かあれば教えて欲しい。ストックマネジメントについても具体的にどのような想定なのか。費用を抑えながら平準化することなのか。
- 事務局 農業集落排水については過去、政策的に導入されたという経緯はある。他市町村でも農業集落排水や漁業集落排水などがあり、頭を悩ませているのが現状である。先進事例などでは、事業をやめて個別処理にしているものや、1度更新を行い、後は組合に任せるなど色々な方法がある。今後は何かしらの対策を講じる必要があると考えている。今後の推移を見ながら、今後10年間は問題提起を行い、後に本格的な議論を進めていく必要がある。
- ストックマネジメントは例えば管路の更新や処理施設の更新を行う際に、耐用年数や傷み具合などに応じて優先度の高いものから順に行うという取組であり、計画に基づいて行っている。広域連携については、下水道では岩沼市に処理場があり、県が主体となり処理施設を運営している。広域連携として今のところ大きな動きはないが、電気料金などの高騰により各市町の負担金が増加しているなどの状況もある。
- 会長 技術者が不足していることについて問題である。民間委託を行うことで人件費の節約にはなると思うが。
- 委員 人口減少を市として受け入れるかどうかの判断にかかると思う。下水道以外のすべてで先細りになる。小さい単位で議論を行うことに違和感を感じている。大きな単位で議論を行うことは出来ないか。
- 事務局 今後の中で検討しながら方向性を見出すしかないと考えている。
- 委員 高倉クリーンセンターと金津クリーンセンターの利用範囲について。
- 事務局 高倉クリーンセンターは高蔵寺辺りから東に手代木沼までの範囲。金津クリーンセンターは山元トンネルへ行く道路辺りから南のエリアである。
- 会長 次回、経営戦略に対する答申になる。パブリックコメントも実施しているということで、それらの意見と委員からの意見等を擦り合わせしながら答申書を作成し、委員の皆さんにお示しする予定。
- 委員 今まで色々と検討いただいている内容だと思うが、説明の中でウォーターPPPの導入可能性の調査を行っているところがあるが、具体的には何を調査して最終的に何を確認しようとしているのか教えて欲しい。

- 事務局 PPP とは水道、下水道に関しての民間活力の活用ということで、官民連携事業というもので、本来であれば料金収入まで全部を任せるというものが最終形態だと思うが、公共性の高い事業でもあることから、角田市としてはそこまでは考えていない。現在は下水道の管路更新の計画策定と実施、検証までの部分を出来ないか検証しているところ。来年度は予定として農業集落排水の処理場の運営維持管理、その他公共下水道の維持管理に関して委託することが出来ないか考えている。期間は10年間の長期契約をすることになる。委託が出来ない内容としては情報の取り扱いなどであると思う。
- 委員 これから世帯数が減ってきて、委託をすることでコストを抑えることが出来るのであれば少しメリットがあると思う。但し、検証の結果、委託を行うことでコストが上がるのであれば、今の台所事情の中では難しいというのなんとなくのイメージが見えるのではないかと思う。
- 事務局 検証について、本来であれば費用を抑えるところが一番のメインになるのは重々解ってはいるが、官民連携事業を導入しないと管路の更新に対して補助金を出さないという国の方針があり、一つの要件である。補助事業が無くなるというのは事業として厳しくなる。基本的には事業の半分に補助金が入り、管路を更新していくということになる。124億円の管路更新では60億円の補助金になる。もう一つとして、建設業従事者が減少しており、技師不足も深刻な状況になっている。この部分の改善についても程度の役割を加味する必要がある。費用対効果については、現在、導入可能性調査を行っており、どのくらいの費用が削減できるかというところが出てくる予定。
- 委員 官民連携を行うことで補助金を得られるという施策の一つであることについて理解した。ただ、何れにしてもコストは上がる方向になると気にしている。
- 委員 色々と資料を用意してもらい皆さんが頑張っているのは分かるが、私のような素人からすると、埼玉県で発生した事故が気になる。あのような事故に対応して国の予算も増やす方向なのか。
- 事務局 国の方からの指示では、埼玉県で発生した事故箇所の規模の下水道管を有しているのは国内に7つ程とのことで、その対象には直接指示がされている。宮城県ではそのようなところは無く、角田市も対象ではないが、自ら点検をして安全対策を行う作業は宮城県でも行っている。仙台市、角田市でも先日、大きな管口径について実施した。これについて費用が国から支出されるというものではないが、必要な事業として自ら行った。
- 会長 あのようなことがあれば、修繕など必要になってくる。今回値上げの検討を行ったが、さらに値上げのようなこともあるのか。
- 事務局 令和7年、8年、9年の3ヵ年について継続的に事業が出来るように改定をしており、物価の高騰などもあるが、例えば5年程度の目安の期間の中で検討を行い、

必要があれば改定することも考えられる。そのまま継続することが出来れば据え置くという考え。資金が必要な事業であり、今一番必要と思われるものは管の更新や修繕であり、優先度の高いものから順に行っていくとう姿勢で取り組んでいる最中である。

委員 先ほどの官民連携について、テレビのニュースでも取り上げられているが、土木技術者が減っている。新たに白石工業高校などに土木工学の学科を設けてという話もあるが。角田市職員の今後を考えると、例えば補助を出して優秀な人材に勉強をしてもらって、市に入ってもらうなど考えはないのか。

事務局 市の技術職員について足りない状況にあり、困っている状況である。募集はしているが中々応募がない。人材育成という部分で、仙南にも工業高校はあるが、見合う職種がないということで、県の方へ仙南に土木技師等の担い手となるような人の育成が出来る高校を準備して欲しいというお願いをしている。どこの自治体でも不足しているというのが実情と思われる。他町の話であるが、工業高校のOBである職員が母校に行き働きかけをしているという話もある。但し、お金を出す奨学金制度や何かしらを設けてというのはルール上できないかと思われる。

会長 使用料の話について、復習になるかもしれないが、使用料で維持管理費をすべて賄うが、他に今までの借金を返済するお金が足りていないという状況がわかる。さらに、今後、管路の老朽化のことで、以前のような大きな災害はないと思うが、事故は起こりえる。令和13年頃から管路の更新を行う場合に、更新に係る費用というのは先程のウォーターPPP を行い補助金を貰いながらやるということで、これも借金を行う必要がある。管路更新が始まるとどのようになるのか。

事務局 維持管理費というのは職員の人件費などもあり、このような部分については推計上大丈夫である。更新については、大体年間3億円で124億円を見込んでいる。45%は国庫補助金を受け、企業債も充てることになるのが下水道事業の難しいところである。企業債を発行しない場合、国からの交付金が来ないということで、実際に足りないお金というのが45%の半分22.5%がやはり使用料収入で何とかするか、又は一般会計でお金を出すかということになる。先程の4ページのグラフのとおり、どの程度の更新をしていくかということと、費用対効果が無いとことを止めるという判断が必要になると考えている。色々と資金繰りがあり、うまくバランスを取りながら事業を行っていきたいと考えている。

会長 公共下水道については区域の見直し等の話もあり、出来るだけ費用対効果に見合うような区域を選定していくのは分かるが、公共下水道はやめられない。農業集落排水事業については、将来的に二つの処理場について改修も大変な費用になる。当然、集落の人口は減っていくので使用料は上がらない。改修についても一財を積み込まなければならぬ状況になると、税の公平性から考えて大変

なことになる。将来的には農集排をやめるという極端な話にも行く可能性があると考えている。私の想定ではその辺も視野に入れておかなければならないのではと勝手に考えている。あくまで意見としてである。

事務局 予測ということで、明日明後日の話しではないが、近い将来そのようなことが来るというのは予測されることである。農集排の地域では人口の減少が大きい。その人数で処理場を維持するのは難しくなる。維持できなければどのような形で処理を行うかという話しをしなければならない。

会長 極端な話として、集合処理をやめて合併処理浄化槽を設置するなどの時代も来るのではないかと考えさせられる。

委員 農業集落排水については今後さらに非効率になると考えられるが、水道事業だけではなく、農業振興と一緒にしなければいけない事業である。そのような動きがあれば教えて欲しい。また、今回の計画である年度からはキャッシュがマイナスになるものと思うが、おそらく角田市単独で事業を行っていくのは限界があるように思う。記載にもあるように広域連携のような動きが今の段階で何かあれば教えて欲しい。ストックマネジメントについても具体的にどのような想定なのか。費用を抑えながら平準化するということなのか。

事務局 農業集落排水については過去、政策的に導入されたという経緯はある。他市町村でも農業集落排水や漁業集落排水などがあり、頭を悩ませているのが現状である。先進事例などでは、事業をやめて個別処理にしているものや、1度更新を行い、後は組合に任せるなど色々な方法がある。今後は何かしらの対策を講じる必要があると考えている。今後の推移を見ながら、今後10年間は問題提起を行い、後に本格的な議論を進めていく必要がある。

ストックマネジメントは例えば管路の更新や処理施設の更新を行う際に、耐用年数や傷み具合などに応じて優先度の高いものから順に行うという取組であり、計画に基づいて行っている。広域連携については、下水道では岩沼市に処理場があり、県が主体となり処理施設を運営している。広域連携として今のところ大きな動きはないが、電気料金などの高騰により各市町の負担金が増加しているなどの状況もある。

会長 技術者が不足していることについて問題である。民間委託を行うことで人件費の節約にはなると思うが。

委員 人口減少を市として受け入れるかどうかの判断にかかると思う。下水道以外のすべてで先細りになる。小さい単位で議論を行うことに違和感を感じている。大きな単位で議論を行うことは出来ないか。

事務局 今後の中で検討しながら方向性を見出すしかないと考えている。

委員 高倉クリーンセンターと金津クリーンセンターの利用範囲について。

事務局 高倉クリーンセンターは高蔵寺辺りから東に手代木沼までの範囲。金津クリーンセンターは山元トンネルへ行く道路辺りから南のエリアである。

会長 次回、経営戦略に対する答申になる。パブリックコメントも実施しているということで、それらの意見と委員からの意見等を擦り合わせしながら答申書を作成し、委員の皆さんにお示しする予定。